

平成 28 年 11 月 30 日

# 静岡経済研究所

## NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所

理事長 鈴木一雄

静岡市葵区追手町 1-13

TEL054-250-8750

FAX054-250-8770

### 第 52 回

## 「静岡県版 景気ウォッチャー」調査(平成 28 年 10 月)

～悪天候などを背景に売上げ伸び悩み、景況感は水面下が続く～

#### 現状判断

平成 28 年 10 月実施の「静岡県版 景気ウォッチャー」調査では、台風等の悪天候の影響により小売・飲食関連で客足が減少し売上げが伸び悩んだことなどから、県内景気の「現状判断指数(方向性)」は 44.6 と、前回 7 月調査(43.1)からは +1.5 ポイント上昇したものの、景気の横ばいを示す指数「50」を 4 期連続で下回った。

#### 先行き判断

一方、2～3 カ月先の「先行き判断指数(方向性)」も 48.5 と、前回調査(44.8)から +3.7 ポイント上昇したものの、国内外の経済・政治情勢の不透明感が強まっていることなどから、3 期連続の悪化判断となった。

担当：齊藤貴大



## 第52回 静岡県版「景気ウォッチャー調査（平成28年10月）」

### 悪天候などを背景に売上げ伸び悩み、景況感は水面下が続く

平成28年10月調査の現状判断指数は44.6で、前回7月調査（43.1）から+1.5ポイント上昇したものの（図表1、2）、景気の“横ばい”を示す指数「50」を4期連続で下回った。一方、2～3カ月先の景況感を示す先行き判断指数も48.5と、前回7月調査（44.8）から+3.7ポイント上昇したが、3期連続で「50」を下回った（図表1、4）。

現状について悪化判断が続いた要因としては、住宅関連で住宅ローン金利の低下により改善判断が続いたものの、台風等の悪天候の影響により客数が減少した小売・飲食関連で売上が伸び悩んだことや、事業所向けビジネス関連で低価格要請が強くなり、悪化判断が続いていることが影響した。

先行きについては、年末年始の季節需要があるものの家計消費関連で横ばい判断となる。一方、国内景気の足踏み感や世界経済の先行き不透明感から事業所向けビジネス関連、雇用関連の2分野では悪化判断となっており、消費や企業活動を刺激する景気浮揚策の早期実施が期待されている。

#### 調査結果の要旨

##### <D.I.は次頁「調査の要領」参照>

#### 現状判断（D.I.=44.6） 住宅・雇用のみ改善、全体では内外の不透明感により悪化

- ・家計消費関連（D.I.=43.8） 住宅関連で好調続くが、小売・飲食関連で悪化
- ・事業所向けビジネス関連（D.I.=43.8） 低価格要請強く、悪化判断続く
- ・雇用関連（D.I.=52.8） 人手不足感から求人が増加、大幅に改善

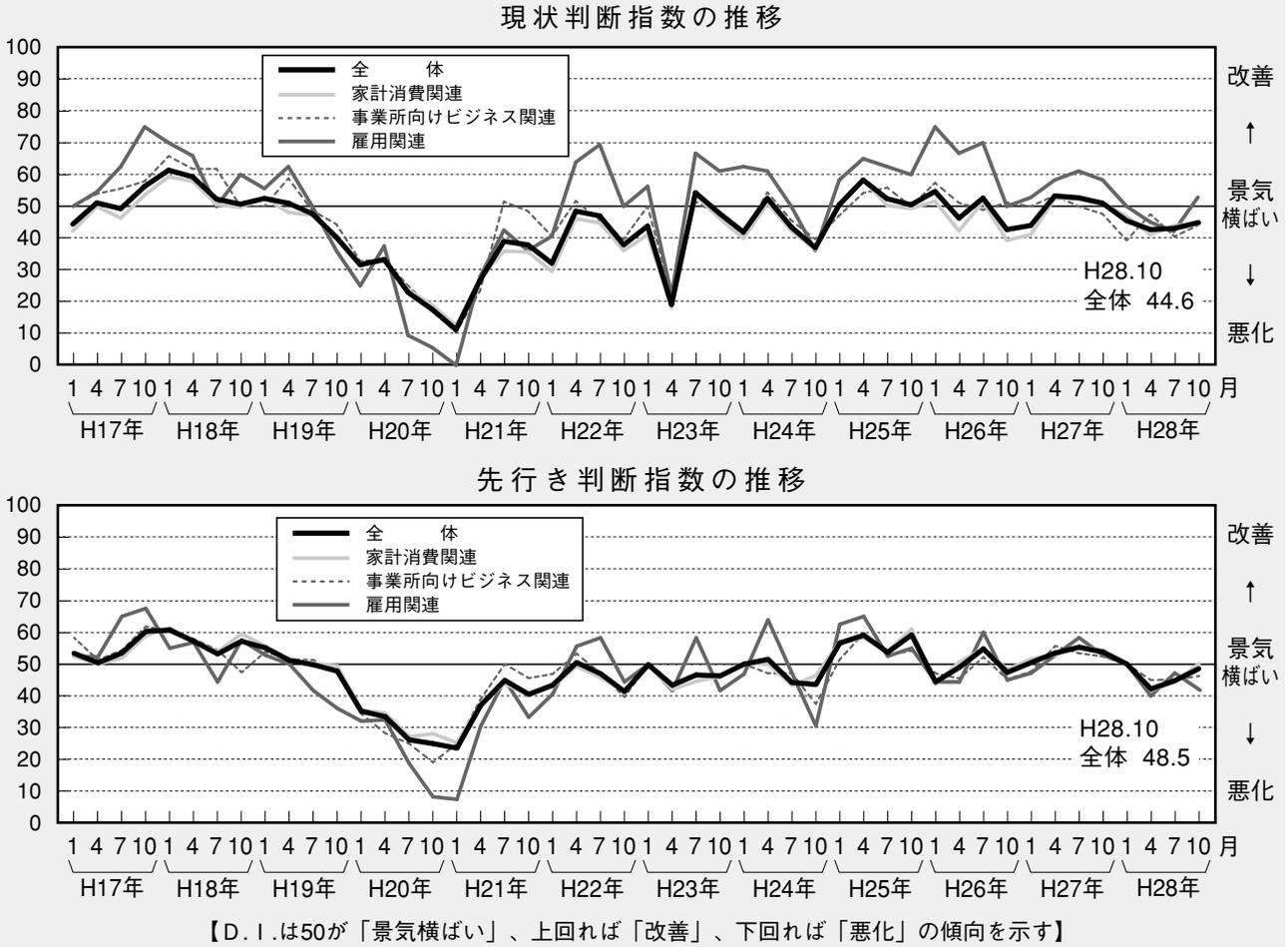
##### <現状判断の理由>

- ・家計消費関連・・・小売・飲食関連を中心に「来客数」や「販売量」が落ち込む
- ・事業所向けビジネス関連・・・「受注量」や「販売量」の減少から、悪化判断
- ・雇用関連・・・「求人」の増加から、改善判断

#### 先行き判断（D.I.=48.5） 季節需要への期待が高まるも、悪化見通しが続く

- ・家計消費関連（D.I.=50.0） 住宅以外は前回から上昇、全体では横ばい見通し
- ・事業所向けビジネス関連（D.I.=46.3） 国内景気の足踏み感から、悪化見通し
- ・雇用関連（D.I.=41.7） 先行き不透明感から、悪化見通し

図表1 現状判断指数(D.I.)と先行き判断指数(D.I.)の推移



### 調査の要領

- (1) 調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的としている。
- (2) 調査対象・方法：経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者にアンケート調査
  - ・家計消費関連 (n=72)
    - (内訳) 小売関連 (n=28) 百貨店、スーパー、乗用車販売など
    - 飲食関連 (n=10) 飲食店、外食チェーンなど
    - サービス関連 (n=25) 観光ホテル、旅行代理店など
    - 住宅関連 (n=9) 不動産販売、住宅販売など
  - ・事業向けビジネス関連 (n=20) 印刷、広告代理店、運輸など
  - ・雇用関連 (n=9) 人材派遣、職業紹介など
- (3) 調査事項：現在の景気の水準について/景気の現状に対する判断 (3カ月前との比較)/その判断理由と、追加説明および具体的状況の説明など (自由回答)/景気の先行きに対する判断 (2～3カ月前の予想)
- (4) 調査時点：平成28年10月下旬
- (5) 回答状況：調査対象108名のうち、有効回答を寄せていただいた方は101名で、有効回答率は93.5%である。

\* 景気判断指数とは、景気の現状や先行きに対する判断を点数化 (下表) し、それらに各判断の構成比 (%) を乗じて指数 (D.I.) 化したものである。これにより、判断指数 (方向性) においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。

|     |              |      |        |           |        |      |
|-----|--------------|------|--------|-----------|--------|------|
| 評価  | 現在の景気 (水準判断) | 良い   | やや良い   | どちらとも言えない | やや悪い   | 悪い   |
|     | 現状判断         | 良くなる | やや良くなる | 変わらない     | やや悪くなる | 悪くなる |
| 点 数 | 先行き判断        | 良くなる | やや良くなる | 変わらない     | やや悪くなる | 悪くなる |
|     | 点 数          | +1   | +0.75  | +0.5      | +0.25  | 0    |

## 現状判断 住宅・雇用のみ改善、全体では内外の不透明感により悪化

### 家計消費関連（D.I.=43.8）住宅関連で好調続くが、小売・飲食関連で悪化

家計消費関連の現状判断は43.8と、前回より△0.2ポイント低下し、引き続き横ばいを示す「50」を下回る悪化判断となった。内訳をみると、小売関連（41.1）では、「来店客数が減少しているが、それ以上に客単価が大きく減少している」（百貨店）、「利用件数は増加しているが、高額利用は減少している」（商店街）など、消費の儉約姿勢が維持され、悪化判断が続く。飲食関連（35.0）では、「台風や雨が多かったことや祝日等の関係から週末の来客がよくない」（外食チェーン）と、台風や長雨の影響により、大幅な悪化となった。サービス関連（42.0）では、「昨年と同じ人員を確保しようとする、単価の安いプランでないと決まらない」（観光ホテル）、「受講生の継続率が低下、新入会員も伸びていない」（カルチャーセンター）など、不透明感から悪化した。一方、住宅関連（66.7）では、「中古マンションについては堅調な動きを見せており、土地についてもハウスメーカーの間合せが増えている」（住宅・マンション販売）など、改善判断となった。

### 事業所向けビジネス関連（D.I.=43.8）低価格要請強く、悪化判断続く

事業所向けビジネス関連は43.8と、前回から+3.3ポイント上昇したものの、横ばいを示す「50」を下回り、引き続き悪化判断となった。「価格の高い弁当が売れず、昼食に給食弁当を頼まない人が増えた」（給食）、「受注量が変わらなくても、販売価格の見直しを求められることが多い」（印刷）などの意見が挙げられた。

### 雇用関連（D.I.=52.8）人手不足感から求人が増加、大幅に改善

雇用関連は52.8と、前回から+11.1ポイント上昇し、大幅な改善判断となった。「様々な業界で人材が不足し、求人数が増加している」（人材派遣）などの意見がみられた。

図表2 現状判断指数D.I.の推移

| 分野          | 調査時期   | H26.10月 | H27.1月 | H27.4月 | H27.7月 | H27.10月 | H28.1月 | H28.4月 | H28.7月 | H28.10月 |       |
|-------------|--------|---------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|---------|-------|
|             |        |         |        |        |        |         |        |        |        | 今回      | 前回比   |
| 全体          |        | 42.7    | 44.0   | 53.3   | 52.7   | 51.0    | 45.5   | 42.7   | 43.1   | 44.6    | + 1.5 |
| 家計消費関連      |        | 39.3    | 41.1   | 52.5   | 52.4   | 51.0    | 46.8   | 41.1   | 44.0   | 43.8    | △ 0.2 |
|             | 小売関連   | 37.9    | 44.0   | 50.0   | 46.4   | 46.6    | 41.3   | 36.6   | 38.0   | 41.1    | + 3.1 |
|             | 飲食関連   | 40.0    | 36.1   | 50.0   | 52.8   | 50.0    | 52.5   | 40.0   | 55.6   | 35.0    | △20.6 |
|             | サービス関連 | 39.4    | 37.0   | 53.8   | 57.7   | 51.0    | 44.0   | 43.3   | 42.3   | 42.0    | △ 0.3 |
|             | 住宅関連   | 43.8    | 50.0   | 59.4   | 55.6   | 65.0    | 63.9   | 50.0   | 66.7   | 66.7    | + 0.0 |
| 事業所向けビジネス関連 |        | 51.2    | 50.0   | 53.4   | 50.0   | 47.6    | 39.3   | 47.5   | 40.5   | 43.8    | + 3.3 |
| 雇用関連        |        | 50.0    | 52.8   | 58.3   | 61.1   | 58.3    | 50.0   | 45.5   | 41.7   | 52.8    | +11.1 |

## <現状判断の理由>

### 家計消費関連…小売・飲食関連を中心に「来客数」や「販売量」が落ち込む

家計消費関連は、“(やや)悪くなっている”の判断理由として、小売・サービス関連を中心に「来客数の動き」、「販売量の動き」が多く挙げられた。「来客数が減少しており、販促に対する反応も良くない」(靴販売)、「夜間の需要回数が減少している」(タクシー)などの意見が挙げられた。

### 事業所向けビジネス関連…「受注量」や「販売量」の減少から、悪化判断

事業所向けビジネス関連では、“変わらない”や“(やや)悪くなっている”の判断理由として、「受注量や販売量の動き」を挙げる意見が多く、「受注は予想した範囲内で推移している」(運送)、「消費増税が延期になった時点から、受注量は減少傾向である」(司法書士事務所)などの声が聞かれた。

### 雇用関連…「求人」の増加から、改善判断

雇用関連では、“(やや)良くなっている”や“変わらない”の判断理由として、「求人の動き」が挙げられ、「有効求人倍率など雇用関係指標は前年より大幅に改善し、新規求職者は減少傾向、新規求人数は増加傾向が続いている」(職業紹介)など求人数の増加から改善判断がされた。

図表3 景気の現状判断理由

#### <家計消費関連(n=68)>

| 景気の判断理由           | 来客数の動き | 販売量の動き | 客単価の動き | お客様の様子 | 競争相手の様子 | 左記以外 |
|-------------------|--------|--------|--------|--------|---------|------|
| (やや)良くなっている(n=13) | 6      | 7      | 0      | 0      | 0       | 0    |
| 変わらない(n=30)       | 16     | 9      | 1      | 4      | 0       | 0    |
| (やや)悪くなっている(n=25) | 14     | 6      | 1      | 3      | 1       | 0    |

#### <事業所向けビジネス関連(n=19)>

| 景気の判断理由          | 受注量や販売量の動き | 受注価格や販売価格の動き | 取引先の様子 | 競争相手の様子 | 左記以外 |
|------------------|------------|--------------|--------|---------|------|
| (やや)良くなっている(n=3) | 3          | 0            | 0      | 0       | 0    |
| 変わらない(n=8)       | 6          | 1            | 1      | 0       | 0    |
| (やや)悪くなっている(n=8) | 6          | 1            | 1      | 0       | 0    |

#### <雇用関連(n=9)>

| 景気の判断理由          | 求人の動き | 求職者の動き | 就職者の動き | 窓口の繁忙度合い | 他の人材関連会社等の様子 | 左記以外 |
|------------------|-------|--------|--------|----------|--------------|------|
| (やや)良くなっている(n=3) | 2     | 1      | 0      | 0        | 0            | 0    |
| 変わらない(n=4)       | 3     | 0      | 0      | 1        | 0            | 0    |
| (やや)悪くなっている(n=2) | 1     | 1      | 0      | 0        | 0            | 0    |

※nは、回答先数

※判断理由の無回答・複数回答先を除く

## 先行き判断 季節需要への期待が高まるも、悪化見通しが続く

### 家計消費関連（D.I.=50.0）住宅以外は前回から上昇、全体では横ばい見通し

家計消費関連の先行き判断は50.0と、前回調査（44.4）から+5.6ポイント上昇し、横ばい見通しとなった。内訳をみると、小売関連（49.1）では、「クリスマスや年末年始、冬のバーゲン期間の来客数増加が見込まれる」（スーパー）など、年末商戦による売上増加が期待されるが、「物販の閉店が続いており、商店街への来客の更なる減少が予想される」（靴販売）と、消費マインドの冷え込み継続により、悪化見通しとなった。飲食関連（52.5）では、「忘年会シーズンで客単価が上がり、売上増加を見込んでいる」（外食チェーン）など、忘新年会による売上増加から改善するとみている。サービス関連（48.0）では、「夜間需要が昨年以上に減少すると予想している」（タクシー）と、悪化幅こそ縮小するものの、低調に推移していく見通しとなった。一方、住宅関連（55.6）では、「新規分譲地が増えてきて、来客数の増加が見込まれる」（住宅・マンション販売）など、低水準な住宅ローン金利が続く中、消費者の購入意欲向上への期待が続いている。

### 事業所向けビジネス関連（D.I.=46.3）国内景気の足踏み感から、悪化見通し

事業所向けビジネス関連は46.3と、前回から+1.1ポイント上昇したものの、引き続き悪化すると見通している。「大企業は別として、小企業は確実にデフレ状態だと感じる」（給食）など、国内景気の足踏み感に対する懸念がみられる。

### 雇用関連（D.I.=41.7）先行き不透明感から、悪化見通し

雇用関連も41.7と、前回から△5.5ポイント低下し、引き続き悪化見通しとなった。「経済政策の効果が出ていないことが、様々な指標で明らかになったため、雇用の引き締めが避けられない。短期求人も伸び悩む見通し」（求人情報誌）など、国内外の不透明感から先行きの雇用情勢に対して不安視する見方が強い。

図表4 先行き判断指数D.I.の推移

| 分野          | 調査時期   | H26.10月 | H27.1月 | H27.4月 | H27.7月 | H27.10月 | H28.1月 | H28.4月 | H28.7月 | H28.10月 |       |
|-------------|--------|---------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|---------|-------|
|             |        |         |        |        |        |         |        |        |        | 今回      | 前回比   |
| 全体          |        | 47.4    | 50.5   | 53.5   | 55.3   | 53.8    | 50.0   | 42.2   | 44.8   | 48.5    | + 3.7 |
| 家計消費関連      |        | 48.3    | 51.7   | 52.9   | 55.6   | 54.3    | 50.0   | 41.7   | 44.4   | 50.0    | + 5.6 |
|             | 小売関連   | 45.2    | 47.4   | 52.8   | 56.3   | 52.6    | 47.0   | 37.5   | 40.7   | 49.1    | + 8.4 |
|             | 飲食関連   | 57.5    | 47.2   | 55.6   | 52.8   | 60.0    | 52.5   | 52.5   | 41.7   | 52.5    | +10.8 |
|             | サービス関連 | 49.0    | 55.6   | 50.0   | 53.8   | 52.9    | 48.0   | 39.0   | 44.2   | 48.0    | + 3.8 |
|             | 住宅関連   | 46.9    | 59.4   | 59.4   | 61.1   | 57.5    | 61.1   | 50.0   | 58.3   | 55.6    | △ 2.7 |
| 事業所向けビジネス関連 |        | 45.2    | 47.7   | 55.7   | 53.4   | 52.4    | 50.0   | 45.0   | 45.2   | 46.3    | + 1.1 |
| 雇用関連        |        | 45.0    | 47.2   | 52.8   | 58.3   | 52.8    | 50.0   | 40.0   | 47.2   | 41.7    | △ 5.5 |

## 総括

### 年末年始の季節需要を追い風に、景気回復へ

今回の景気判断を総括すると、まず現状判断指数は44.6となり、“景気の横ばい”を示す指数「50」を4期連続で下回った。分野別にみると、「家計消費関連」では、住宅関連で住宅ローン金利の低下を背景に改善判断が続いたものの、小売・飲食関連を中心に台風等の悪天候で客数が減少したことから、売上が伸び悩み、悪化判断が続いた。「事業所向けビジネス関連」では、強い低価格要請により悪化判断が続いた一方で、「雇用関連」では、人手不足感の高まりから求人数が増加し、改善判断となっている。

一方、先行きについても、前回調査から+3.7ポイント上昇したものの、先行き判断指数は48.5と、3期連続で「50」を下回った。「家計消費関連」では、季節需要への期待が高まるが、「事業所向けビジネス関連」では、国内景気の足踏み感に対する懸念が継続し、「雇用関連」では、雇用のミスマッチや国内外の不透明感から、悪化見通しが続いている。

以上、静岡県内のウォッチャーによる景気判断では、多発した台風等悪天候の影響により売上が伸び悩んだ。先行きについても、好転材料に乏しく、個人消費は引き続き伸び悩みとみられ、悪化見通しが続く。11月には、米国において政治経験のないトランプ氏が次期大統領に選ばれるなど世界経済の不透明感が増している。今後は、消費者マインドが上向き、企業活動も力強さを取り戻せるような、経済政策の実現が早急に望まれる。

(齊藤貴大)

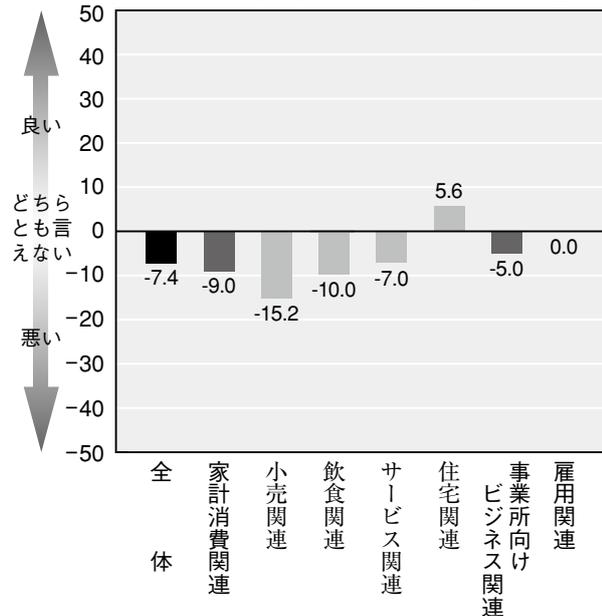
#### <参考>

#### 現時点の景気は、事業所向けビジネス関連でマイナス幅が拡大

10月の景気が“良いか悪いか”を聞いた、現時点での景気の「水準判断」は $\Delta 7.4$ と、前回調査( $\Delta 6.7$ )から $\Delta 0.7$ ポイント低下し、引き続き基準値0を下回った(図表5)。

内訳をみると、家計消費関連は、小売関連( $\Delta 15.2$ )のマイナスが大きく、全体では $\Delta 9.0$ となった。事業所向けビジネス関連も $\Delta 5.0$ で“悪い”と判断されたが、雇用関連は+0.0と横ばい判断となった。

図表5 現時点での「水準判断」



※現在の景気に対する判断を点数化して各判断の構成比を乗じた上で、「どちらとも言えない」をゼロとして数値化したもの。プラスであれば景気が「良い」、マイナスであれば景気が「悪い」ことを示す。